

東北の文化財

文化財の
保存と
修復

新たな保存と活用を
めざして

多賀城跡の 史跡 保存と整備



進藤 秋輝

多賀城跡調査研究
指導委員

多賀城跡調査研究指導委員
1969年東北大学文学研究科
修士課程修了。東北歴史博物
館副館長を務め2004年に退
職。宮城県考古学会会長。
専門は歴史考古学、特に城柵
と瓦の研究。

龜11(780)年の記事でも「その城(多賀城)久年国司が治める所」と記すように、陸奥国府でもありました。すなわち、陸奥出羽両国を統括する広域行政官庁で陸奥国府でもありました。

さらに、801年に胆沢城が建設され、その地に軍制の府である鎮守府が移転するまでは、鎮守府も併置されていました。まさに、多賀城は東北経営の行政、軍政の拠点施設であったのです(図1)。



図2 整備された 期政庁跡(南から)〔口絵カラー参照〕

多賀城の構成

皆様ご存じのとおり、古代の多賀城跡は大きく3つのブロックから成立しています。その中心になるブロックが築地で囲われた政庁です。正殿、東脇殿、西脇殿などの主要な殿舎が立ち並び、儀式用の広場を備えた一郭です。ここでは、蝦夷への饗宴や正月元旦の儀式をはじめ、節會や吉祥天悔過などの仏教行事、年中行事が行われた儀式の場でもあります。また、中央政府に上申する文書の事務決済の場でもありました(図2)。

第2のブロックは、政庁を取り囲む方八町ほどの範囲を築地で区画した実務官庁域です。特定の職掌を担う1単位の実務官庁は、数棟の掘立柱建物群や井戸・工房・竪穴などで構成されていますが、これらが集合した全体を築地で区画した実務官庁域を構成していたわけです。

第3のブロックは、ここ十数年の調査でわかってきたことですが、官庁域の南前面に広がる政治的な都市区域です。この国府の町並みは東西1.7 km、南北0.7 kmに及び東西・南北に通る道路網で方形に区画され、なかに国司館や寺院などを配置しています。このように、多賀城跡は全国の国府のなかでも構成と内容がもっとも知られた遺跡として注目されています。

多賀城跡の現状

多賀城跡は南に仙台平野を望む松島丘陵の西端部にあたる多賀城市市川と浮

を
め
ざ
し
て
保
存
と
活
用
新
た
な

新たな 保存と活用 をめざして

島にわたって所在しております。低丘陵を中心に、一部東と西では沖積地を取り込んで立地しています。丘陵平坦部は宅地、畑地、果樹園などに、沖積地は水田、丘陵斜面は山林として利用されています。

多賀城跡と付属寺院は大正11(1922)年に国史跡に、昭和41(1966)年には国特別史跡に昇格して行政的に保護されてきました。また、発掘調査の成果により、その後に幾度が追加指定され、現在の指定面積は107 haです。

史跡公園化事業は当時の多賀城町が昭和41年から3年間に多賀城廃寺を、昭和45(1970)年からは宮城県多賀城跡調査研究所が多賀城跡について実施しています。当時の建物などを表示した整備地域は周囲の緑陰とも調和して、多賀城特有の歴史景観を醸成しています(図3)。訪れる人々がこの歴史的、文化的景観を享受できるのも、地域住民をはじめとする先人の遺跡保存にかけたなみなみならぬ努力があったからにほかなりません。その保存の足跡を振り返り、新たな保存と活用のありかたを考えてみたいと思います。

江戸時代の保存と歴史観

多賀城は10世紀末ころには衰退の一途をたどり、長い間地中に埋もれていたようです。

多賀城跡についての記録が最初になされたのは、延宝5(1677)年ころに成立した『仙台領古城書立覚』においてです。この覚は郡ごとに廃城を集録したもので、宮城郡33か城のひとつに多賀城の名がみえます。記載では、多賀城は平



図3 緑陰に囲まれた実務官衙の整備。
大畑地区(南から)